(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2013-94447
(P2013-94447A)
(43)公開日　平成25年5月20日(2013.5.20)

| (51)Int.Cl. | | F I | | テーマコード（参考） |
|---|---|---|---|---|
| A47B 81/00 | (2006.01) | A47B 81/00 | F | |
| A47B 46/00 | (2006.01) | A47B 46/00 | 501B | |
| A47B 96/06 | (2006.01) | A47B 96/06 | Q | |
| | | A47B 96/06 | H | |

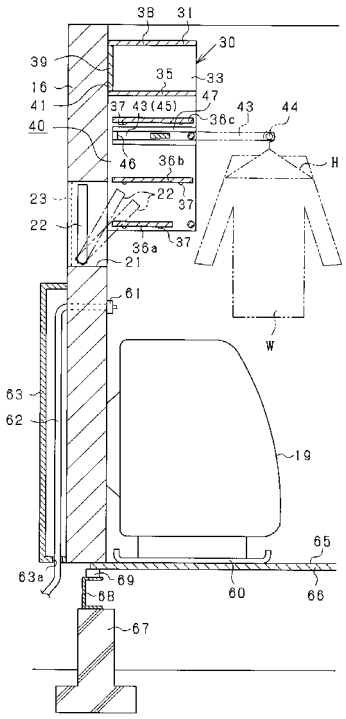
審査請求 未請求　請求項の数 6　ＯＬ　（全 16 頁）

(21)出願番号　特願2011-240277 (P2011-240277)
(22)出願日　平成23年11月1日 (2011.11.1)

(71)出願人　504093467
トヨタホーム株式会社
愛知県名古屋市東区泉一丁目２３番２２号
(74)代理人　100121821
弁理士　山田　強
(72)発明者　初山　恵莉
愛知県名古屋市東区泉１丁目２３番２２号
トヨタホーム株式会社内

(54)【発明の名称】建物における収納棚の設置構造

(57)【要約】
【課題】窓戸の屋内側に収納棚が設置される場合でも、窓戸を開いて通気性を確保することができる建物における収納棚の設置構造を提供する。
【解決手段】建物の外壁部１６に形成された窓部２１には、回動することにより該窓部２１を開閉する窓ガラス２２が設けられており、外壁部１６における屋内側の壁際には、窓部２１と屋内外方向に一部重なるようにして収納棚３０が設置されている。窓ガラス２２は、その開放に伴い窓部２１に対して屋内側に傾く内倒し窓により構成されている。収納棚３０において外壁部１６側の背面部４１には、その一部の領域にのみ背板３９が配設されることで、窓ガラス２２を開放した際に当該窓ガラス２２が収納棚３０と干渉するのを回避するための開口領域４０が形成されている。
【選択図】　図３



【特許請求の範囲】
【請求項１】
建物の外壁部に形成された窓部には、回動することにより該窓部を開閉する窓戸が設けられており、前記外壁部における屋内側の壁際には、前記窓部と屋内外方向に一部重なるようにして収納棚が設置されている建物における収納棚の設置構造において、
前記窓戸は、その少なくとも一部が当該窓戸の開放に伴い前記窓部に対して屋内側に傾く屋内側傾き部となっており、
前記収納棚において前記外壁部側の背面部には、その一部の領域にのみ背板が配設されることで、前記窓戸を開放した際に前記屋内側傾き部が前記収納棚と干渉するのを回避するための開口部が形成されていることを特徴とする建物における収納棚の設置構造。
【請求項２】
前記収納棚は、
前記背板を挟んだ両側に対向配置される一対の側板と、
それら各側板の間に上下に複数架設された棚板と、を備え、
前記窓戸を開放状態とすることにより、前記屋内側傾き部が上下に隣り合う２つの棚板の間に入り込む構成となっていることを特徴とする請求項１に記載の建物における収納棚の設置構造。
【請求項３】
前記窓戸の開放状態において前記屋内側傾き部を挟んで上下に隣り合う２つの棚板のうち少なくともいずれかは、前記側板に着脱可能に支持されている可動棚板であることを特徴とする請求項２に記載の建物における収納棚の設置構造。
【請求項４】
前記窓戸は、その下端部を回動中心とする回動によって所定の開放位置まで屋内側に傾倒されることで開放状態となる内倒し窓により構成され、該内倒し窓により構成されることでその全体が前記屋内側傾き部となっており、
前記窓戸は、前記所定の開放位置よりもさらに屋内側に傾倒されるメンテナンス位置まで傾倒可能とされており、前記所定の開放位置では前記上下に隣り合う２つの棚板の間にその一部が入り込む一方、前記メンテナンス位置では前記２つの棚板のうち下側の棚板にその一部が干渉する位置まで傾けられ、当該下側の棚板が前記可動棚板により構成されていることを特徴とする請求項３に記載の建物における収納棚の設置構造。
【請求項５】
前記窓戸は、その下端部を回動中心とする回動によって所定の開放位置まで屋内側に傾倒されることで開放状態となる内倒し窓により構成され、該内倒し窓により構成されることでその全体が前記屋内側傾き部となっており、
前記窓部において前記窓戸よりも屋外側には網戸が着脱可能に設けられており、
前記窓戸は、前記所定の開放位置よりもさらに屋内側に傾倒されるメンテナンス位置まで傾倒可能とされており、該メンテナンス位置に傾倒された状態において当該窓戸の傾斜方向における延長線上に配置されたすべての前記棚板が、前記側板に着脱可能に支持されている可動棚板であることを特徴とする請求項２乃至４のいずれか一項に記載の建物における収納棚の設置構造。
【請求項６】
前記収納棚は、洗濯機が設けられるランドリー空間において前記洗濯機の上方に設けられる上部戸棚であり、
前記外壁部の一部であって前記窓部よりも下側の部分となる窓下外壁部分が段差部を介して当該窓部よりも屋外側に配置されることにより、前記ランドリー空間を前記窓部に対して屋外側に拡張させる拡張スペースが形成されており、その拡張スペースの少なくとも一部を用いて前記洗濯機が設置されていることを特徴とする請求項１乃至５のいずれか一項に記載の建物における収納棚の設置構造。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】

【０００１】
本発明は、建物における収納棚の設置構造に関する。
【背景技術】
【０００２】
住宅等の建物では、洗面室に洗面台とともに洗濯機を設置し、洗面室をランドリー空間として利用することがある。この場合、洗面台と洗濯機とは、例えば洗面室を屋外と仕切る外壁部の壁際に横並びで設置される。また、かかる洗面室では、外壁部において洗濯機の上方となる位置に窓部を設け、その窓部を通じて洗面室への採光や通気を行うことがある。なお、窓部には、当該窓部を開閉する窓戸が設けられる。
【０００３】
また、洗面室には、タオル等の洗面用具や、洗剤等の洗濯用品といった物品を収納する収納棚が設置されているのが一般である（例えば特許文献１参照）。ここで、建物内において居住スペースを十分確保しようとすると、洗面室が手狭になることが多く、その場合収納棚を床面上に設置するのが困難となるため、収納棚は例えば外壁部において洗濯機の上方に設置される。このような設置構成では、収納棚の一部が窓部の屋内側に配置されると考えられる。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開平９－１１７３３３号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
ところで、上述の構成では、外壁部の壁際において窓下に洗濯機が設置されているため、窓戸を開け閉めする際には、洗濯機上を窓戸に向かって手を伸ばし開け閉めすることとなり手間がかかる。特に、近年普及が進んでいるドラム式の洗濯機では奥行き寸法が大きいため、窓戸の開け閉めが大変になると考えられる。そこで、これを改善すべく、例えば窓戸として内倒し窓を用いることが考えられる。内倒し窓は、屋内側に傾倒させることにより開放状態となる構成であるため、窓下に洗濯機が設置されていても、窓戸に対して比較的手が届き易く窓戸の開け閉めがし易くなると考えられる。なお、内倒し窓には、その他に屋外側から室内を覗かれにくくする等の利点もある。
【０００６】
しかしながら、窓戸として内倒し窓を用いると、窓戸を屋内側に倒して開いたときに、その一部が屋内側に設置された収納棚と干渉し、窓戸の開き度に制約が生じるおそれがある。その場合、所望の通気性を確保することが困難となるおそれがあり、その改善が求められる。
【０００７】
本発明は、上記事情に鑑みてなされたものであり、窓戸の屋内側に収納棚が設置される場合でも、窓戸を開いて通気性を確保することができる建物における収納棚の設置構造を提供することを主たる目的とするものである。
【課題を解決するための手段】
【０００８】
上記課題を解決すべく、第１の発明の建物における収納棚の設置構造は、建物の外壁部に形成された窓部には、回動することにより該窓部を開閉する窓戸が設けられており、前記外壁部における屋内側の壁際には、前記窓部と屋内外方向に一部重なるようにして収納棚が設置されている建物における収納棚の設置構造において、前記窓戸は、その少なくとも一部が当該窓戸の開放に伴い前記窓部に対して屋内側に傾く屋内側傾き部となっており、前記収納棚において前記外壁部側の背面部には、その一部の領域にのみ背板が配設されることで、前記窓戸を開放した際に前記屋内側傾き部が前記収納棚と干渉するのを回避するための開口部が形成されていることを特徴とする。

【０００９】
本発明によれば、窓戸を開くと、窓戸において屋内側に傾く部分（屋内側傾き部）が、収納棚の背面部に形成された開口部を通じて収納棚の内側に入り込む。これにより、窓戸の屋内側に収納棚が設置される場合でも、窓戸を開いて通気性を確保することができる。
【００１０】
第２の発明の建物における収納棚の設置構造は、第１の発明において、前記収納棚は、前記背板を挟んだ両側に対向配置される一対の側板と、それら各側板の間に上下に複数架設された棚板と、を備え、前記窓戸を開放状態とすることにより、前記屋内側傾き部が上下に隣り合う２つの棚板の間に入り込む構成となっていることを特徴とする。
【００１１】
本発明によれば、上下に複数の棚板を有する収納棚が窓戸の屋内側に設置される場合でも窓戸を開放することができるため、実用上好ましい構成といえる。
【００１２】
第３の発明の建物における収納棚の設置構造は、第２の発明において、前記窓戸の開放状態において前記屋内側傾き部を挟んで上下に隣り合う２つの棚板のうち少なくともいずれかは、前記側板に着脱可能に支持されている可動棚板であることを特徴とする。
【００１３】
本発明によれば、窓戸を開いて窓戸の清掃等のメンテナンスを行う際に、可動棚板を取り外した状態で行うことができるため、窓戸のメンテナンス性向上を図ることができる。特に、窓下に洗濯機等の大型装置が設置される場合には、かかる装置が邪魔となり窓戸のメンテナンスが困難となるためその効果が大きいものとなる。
【００１４】
第４の発明の建物における収納棚の設置構造は、第３の発明において、前記窓戸は、その下端部を回動中心とする回動によって所定の開放位置まで屋内側に傾倒されることで開放状態となる内倒し窓により構成され、該内倒し窓により構成されることでその全体が前記屋内側傾き部となっており、前記窓戸は、前記所定の開放位置よりもさらに屋内側に傾倒されるメンテナンス位置まで傾倒可能とされており、前記所定の開放位置では前記上下に隣り合う２つの棚板の間にその一部が入り込む一方、前記メンテナンス位置では前記２つの棚板のうち下側の棚板にその一部が干渉する位置まで傾けられ、当該下側の棚板が前記可動棚板により構成されていることを特徴とする。
【００１５】
本発明によれば、窓戸が内倒し窓により構成されており、その傾倒位置として所定の開放位置と、それよりも大きく傾倒されるメンテナンス位置との２位置が設定されている。ここで、窓戸が所定の開放位置まで傾倒されると、その一部が上下に隣り合う棚板同士の間に入り込むため、窓戸を開いて通気を行うことが可能となる。また、上下に隣り合う棚板のうち下側の棚板（可動棚板）を取り外せば、窓戸をメンテナンス位置まで傾倒させることができるため、窓戸のメンテナンスを好適に行うことが可能となる。
【００１６】
第５の発明の建物における収納棚の設置構造は、第２乃至第４のいずれかの発明において、前記窓戸は、その下端部を回動中心とする回動によって所定の開放位置まで屋内側に傾倒されることで開放状態となる内倒し窓により構成され、該内倒し窓により構成されることでその全体が前記屋内側傾き部となっており、前記窓部において前記窓戸よりも屋外側には網戸が着脱可能に設けられており、前記窓戸は、前記所定の開放位置よりもさらに屋内側に傾倒されるメンテナンス位置まで傾倒可能とされており、該メンテナンス位置に傾倒された状態において当該窓戸の傾斜方向における延長線上に配置されたすべての前記棚板が、前記側板に着脱可能に支持されている可動棚板であることを特徴とする。
【００１７】
本発明によれば、網戸のメンテナンスを行うべく網戸を窓部から取り外す際、窓戸をメンテナンス位置まで傾倒させるとともに、窓戸の傾斜方向延長線上にあるすべての棚板を取り外すことで、傾倒された窓戸の窓面（詳しくは屋外側の窓面）に沿って網戸を屋内側

にスライドさせて取り外すことができる。この場合、網戸の取り外しが容易となるため、網戸のメンテナンス性向上を図ることができる。

【００１８】

第６の発明の建物における収納棚の設置構造は、第１乃至第５のいずれかの発明において、前記収納棚は、洗濯機が設けられるランドリー空間において前記洗濯機の上方に設けられる上部戸棚であり、前記外壁部の一部であって前記窓部よりも下側の部分となる窓下外壁部分が段差部を介して当該窓部よりも屋外側に配置されることにより、前記ランドリー空間を前記窓部に対して屋外側に拡張させる拡張スペースが形成されており、その拡張スペースの少なくとも一部を用いて前記洗濯機が設置されていることを特徴とする。

【００１９】

本発明によれば、ランドリー空間において窓部よりも屋外側に拡張された拡張スペースを利用して洗濯機を設置することができるため、洗濯機が窓部に対して屋内側に張り出す張出量を小さくすることができる。これにより、窓戸を開け閉めする際に洗濯機が邪魔となるのを抑制することができるため、窓戸の開け閉めを容易とすることができる。

【図面の簡単な説明】

【００２０】

【図１】建物の間取りを示す間取り図。

【図２】洗面室を示す正面図。

【図３】外壁部周辺の構成を示す断面図。

【図４】収納棚を示す斜視図。

【図５】収納棚を示す背面図。

【図６】窓ガラスを開放させる場合の作用を説明するための説明図であり、（ａ）が窓ガラスを通常開放位置まで倒した状態、（ｂ）がメンテナンス位置まで倒した状態を示す。

【図７】他の実施形態における外壁部周辺の構成を示す断面図。

【図８】図７のＢ－Ｂ線断面図。

【図９】壁フレーム及びその周辺部材を示す斜視図。

【発明を実施するための形態】

【００２１】

以下に、本発明を具体化した一実施の形態について図面を参照しつつ説明する。本実施形態では、建物としてユニット式建物について具体化しており、そのユニット式建物は、梁及び柱よりなる複数の建物ユニットが互いに連結されてなるものである。図１は建物の間取りを示す間取り図であり、図２は建物内の洗面室を示す正面図である。

【００２２】

図１に示すように、本実施形態における建物１０には、居室空間としてリビング１１等が設けられているとともに、非居室空間として洗面室１２と、浴室１３と、トイレ１４とが設けられている。洗面室１２には、洗面台１８と、ドラム式の洗濯機１９とが設けられている。洗面台１８と洗濯機１９とは、洗面室１２を屋外と仕切る外壁部１６の壁際に横並びで配置されている。この場合、洗面室１２がランドリー空間に相当する

外壁部１６には、洗面室１２を屋外と連通させる開口部として窓部２１が形成されている。図２に示すように、窓部２１は、外壁部１６において洗濯機１９の上方に形成されており、この窓部２１を通じて洗面室１２への採光や通気が可能となっている。また、窓部２１には、当該窓部２１を開閉する窓戸として窓ガラス２２が設けられている。窓ガラス２２は、屋内側（つまり洗面室１２側）に傾倒されることにより開放状態となる内倒し窓により構成されている（図３参照）。また、窓部２１には、窓ガラス２２の屋外側に網戸２３が着脱可能に設けられている。

【００２３】

洗面室１２において外壁部１６の壁際には収納棚３０が設置されている。収納棚３０は、タオルや石鹸といった水廻り用品等の物品を収納するものであり、洗濯機１９の上方に設置されている。収納棚３０は、外壁部１６に対して固定されることにより設置されており、その設置状態において一部が窓部２１の屋内側に配置されている。この場合、収納棚

３０の一部（詳しくは下部）と窓部２１（窓ガラス２２）とが屋内外方向において互いに重なり合った状態とされている。

【００２４】

ここで、かかる収納棚３０の設置構成では、窓ガラス２２を屋内側に倒して開いた場合に窓ガラス２２が収納棚３０に干渉して、窓ガラス２２の開放量に制約が生じるおそれがある。そこで、本実施形態では、この点に鑑みて、窓ガラス２２を開いた場合に、窓ガラス２２が収納棚３０と干渉するのを回避すべく特徴的な構成を有している。以下、かかる特徴的な構成について図３乃至図５を用いて説明する。なお、図３は外壁部１６周辺の構成を示す断面図であり、図４は収納棚３０を示す斜視図であり、図５は収納棚３０を示す背面図である。また、図３は図２のＡ－Ａ線断面図に相当する。

【００２５】

図３に示すように、窓ガラス２２は、その下端部を回動中心として回動可能に設けられており、その回動によって窓部２１に対し屋内側へ傾倒可能とされている。例えば窓ガラス２２は、その下端部が窓部２１の周縁に沿って配設される窓枠（図示略）にヒンジ（図示略）を介して取り付けられることで回動可能とされている。そして、窓ガラス２２が屋内側に傾倒されることにより、窓部２１が開放されるようになっている。なお、本窓ガラス２２ではその全体が屋内側傾き部となっている。

【００２６】

具体的には、窓ガラス２２は、通常開放位置（図３の一点鎖線を参照）と、それよりも屋内側（屋外側とは反対側）に傾倒されるメンテナンス位置（図３の二点鎖線を参照）とに傾倒可能とされている。本実施形態では、通常開放位置における窓ガラス２２の開き角度（詳しくは鉛直方向に対する窓ガラス２２の傾斜角度）が３０°に設定されており、メンテナンス位置における窓ガラス２２の開き角度が４５°に設定されている。窓ガラス２２は、通常開放位置まで傾倒されることにより所定の開放状態となり、かかる開放状態で用いられるものとなっている。また、窓ガラス２２の清掃等のメンテナンスを行う際には、窓ガラス２２をメンテナンス位置まで傾倒させてメンテナンスを行う。

【００２７】

窓ガラス２２の屋内側には、収納棚３０が設置されている。以下、収納棚３０の構成について図４及び図５を用いて詳しく説明する。

【００２８】

図４及び図５に示すように、収納棚３０は、前面に扉を有しておらず当該前面が開放された第１収納棚部３１と、前面に扉を有する第２収納棚部３２とを備える。収納棚３０は、これら各収納棚部３１，３２が横並びで一体化されることにより構成されている。第１収納棚部３１は、全体として箱状（ボックス状）をなしており、対向する一対の側板３３と、それら各側板３３の間に上下に複数架設された棚板３５，３６とを備える。各側板３３は、例えばパーティクルボードよりなり、窓ガラス２２の横幅よりも大きい間隔を隔てて対向配置されている。

【００２９】

棚板３５，３６は、上下に複数段（本実施形態では４段）設けられ、上下に隣り合う棚板３５，３６同士は互いに離間して配置されている。ここで、各棚板３５，３６における上方スペースが収納スペースとなる。棚板３５，３６は、例えばパーティクルボードよりなり、対向する各側板３３の間に水平方向に延びる向きで架け渡されている。

【００３０】

これら複数の棚板３５，３６のうち、最上段の棚板が固定棚板３５、それ以外の棚板が可動棚板３６として構成されている。固定棚板３５は、その両端部がそれぞれ各側板３３にビス等により固定されており、これにより側板３３に対して着脱不能に取り付けられている。

【００３１】

一方、可動棚板３６は、各側板３３に対して着脱可能に取り付けられている。各側板３３の内側面にはそれぞれ可動棚板３６を支持する支持ピン３７が側板３３の横幅方向に所

定の間隔で複数（例えば２つ）取り付けられている（図３も参照）。そして、これらの支持ピン３７上に可動棚板３６が支持されており、これにより可動棚板３６が着脱可能とされている。具体的には、可動棚板３６の下面には、各支持ピン３７の配設位置に対応して複数の係合溝部（図示略）が形成され、それら各係合溝部に支持ピン３７を入り込ませた（係合させた）状態で可動棚板３６が支持ピン３７上に支持されている。これにより、可動棚板３６が着脱可能とされる構成において、可動棚板３６が側板３３から容易に脱落することが抑制されている。

【００３２】

また、各可動棚板３６はそれぞれ対向する各側板３３間において、その後端部が側板３３の後端部よりも若干前方に位置するように配置されている。この場合、各可動棚板３６の後方には所定のスペースが形成されており、第１収納棚部３１が窓部２１の屋内側に設置される場合に、同スペースにより可動棚板３６が窓枠（図示略）に干渉するのを回避することができるようになっている。

【００３３】

各可動棚板３６のうち最下段に配置された可動棚板３６ａは各側板３３の下端部間に架け渡されて、第１収納棚部３１の底板を構成している。この可動棚板３６ａは、前後方向の長さ（前後幅）が他の可動棚板３６ｂ，３６ｃよりも小さくなっており、これにより可動棚板３６ａの前方には後述するハンガー部５０が配設される配設スペースが形成されている。

【００３４】

対向する各側板３３の上端部の間には天板３８が架け渡されている。天板３８は、例えばパーティクルボードよりなる。天板３８は、その両端部がそれぞれ各側板３３に対してビス等で固定されている。

【００３５】

対向する各側板３３の後端部の間には背板３９が架け渡されている。背板３９は、例えばパーティクルボードよりなる。背板３９は、その横幅寸法が各側板３３の離間距離とほぼ同じとされ、かつ、その高さ寸法（上下長さ）が側板３３の高さ寸法（上下長さ）よりも小さい寸法とされている。具体的には、背板３９の高さ寸法は、天板３８と固定棚板３５との間の離間距離とほぼ同じとされている。そして、背板３９は、第１収納棚部３１の背面部４１において両側板３３、天板３８及び固定棚板３５により囲まれる内側部分に配設されており、その配設状態においてそれら各部材３３，３５，３８に対しビス等で固定されている。この場合、第１収納棚部３１の背面部４１ではその一部（上部）にのみ背板３９が配設され、背板３９が配設されていない残りの部分が開口領域４０となっている。

【００３６】

開口領域４０は、第１収納棚部３１の背面部４１にて同収納棚部３１の内外を連通しており、その開口幅（横幅）が各側板３３により規定されている。したがって、開口領域４０の開口幅は各側板３３の設置間隔（離間距離）と略同じとされており、それ故、開口領域４０の開口幅は窓ガラス２２の横幅よりも大きくなっている。なおここで、開口領域４０が開口部に相当する。

【００３７】

対向する各側板３３の間には、スライド部４３が設けられている。スライド部４３は、横方向に延びる棒状のハンガー部４４と、ハンガー部４４の両端部からそれぞれ後方に延びるように形成された一対のスライドバー４５と、それら各スライドバー４５の後端部同士を横方向に連結する連結バー４６とを備え、それら各部材４４～４６が互いに連結されることで矩形形状をなしている。

【００３８】

スライド部４３は、各側板３３の間において可動棚板３６ｃの直下に配置されており、前後方向にスライド可能に設けられている。具体的には、各側板３３の内側面にはそれぞれスライド部４３の設置高さに合わせて前後方向に延びるスライドレール４７が設けられている。これら各スライドレール４７にはそれぞれスライド部４３の各スライドバー４５

が配設されており、これによりスライド部４３がスライドレール４７を介して各側板３３に支持されている。そして、各スライドバー４５をスライドレール４７に沿ってスライドさせることにより、スライド部４３を前後方向にスライド移動させることが可能となっている。かかる構成によれば、スライド部４３を前方にスライドさせることによりハンガー部４４を手前に引き出すことができるため、例えば洗濯物Ｗをハンガー Ｈに吊ってハンガー部４４に引っ掛けることで洗濯物Ｗを干したりすること等が可能となる（図３参照）。

【００３９】

また、スライド部４３において各スライドバー４５の間には、長手方向の中間位置に幕板４９が架け渡されている。幕板４９は、スライド部４３の補強のために、ひいては第１収納棚部３１の補強のために設けられている。また、幕板４９は、スライド部４３を手前に引き出す際に、その直下の可動棚板３６ｂ上に載置された物品が落下するのを抑制する機能も有している。すなわち、スライド部４３を手前に引き出す際には、可動棚板３６ｂ上の物品が連結バー４６に引っ掛かり転倒ひいては落下する可能性があるが、幕板４９があれば物品が転倒した際に幕板４９によって物品を受けることができるため、物品の落下を抑制することが可能となる。

【００４０】

対向する各側板３３の下端部間にはハンガー部５０が架け渡されている。ハンガー部５０は、横方向に延びる棒状をなし、可動棚板３６ａの前面側に設けられている。この場合、ハンガー部５０にタオル等の物品を引っ掛けることが可能となる。また、ハンガー部５０により各側板３３が連結されているため、補強効果も期待できる。

【００４１】

第２収納棚部３２は、第１収納棚部３１と同様、全体として箱状（ボックス状）をなしており、その高さ寸法及び奥行き寸法がそれぞれ第１収納棚部３１と同じとされている。第２収納棚部３２は、第１収納棚部３１に対して高さ方向及び奥行き方向のそれぞれにおいて位置合わせされた状態で配置され、その配置状態で第１収納棚部３１に連結されている。これにより、収納棚３０は全体として直方体状をなしている。

【００４２】

第２収納棚部３２は、本体部５１と扉部５２とからなる。本体部５１は、対向する一対の側板５３と、それら各側板５３の間に架設された上下複数（図５では３つ）の棚板５４と、各側板５３の間における上端部間に架設された天板５５と、各側板５３の間における後端部間に架設された背板５６とを備え、これら各部材５３～５６が互いに連結されることにより構成されている。第２収納棚部３２における本体部５１の側板５３は第１収納棚部３１における側板３３と当接された状態で、当該側板３３に対してビス等により連結されている。これにより、第２収納棚部３２が第１収納棚部３１と一体化されている。

【００４３】

次に、収納棚３０の設置構成について説明する。

【００４４】

図２及び図３に示すように、収納棚３０は、洗濯機１９の上方位置において、その背面部を外壁部１６の屋内面に対向させた状態で設置されている。かかる収納棚３０の設置状態において、第１収納棚部３１は、その一部（下部）が窓部２１の屋内側に配置されており、当該窓部２１と屋内外方向に重なり合っている。第１収納棚部３１は、その横幅方向（左右方向）の両端部が窓部２１を挟んで左右両側に位置するように配置されており、詳しくは同横幅方向において両側板３３の間に窓部２１ひいては窓ガラス２２が位置するように配置されている。

【００４５】

第１収納棚部３１は、その背板３９を外壁部１６において窓部２１よりも上方の部分に当接させた状態で設けられており、その当接された背板３９が外壁部１６に対してビス等で固定されている。これにより、第１収納棚部３１が外壁部１６に対して固定されている。この場合、第１収納棚部３１の背面部４１では背板３９が窓部２１よりも上方に位置しており、その結果背面部４１において窓部２１と屋内外方向に重なり合っている部分には

開口領域４０が配置されている。これにより、窓部２１の屋内側に第１収納棚部３１が配置される構成においても、開口領域４０を通じて洗面室１２への採光が可能となっている。

【００４６】

より詳しくは、第１収納棚部３１の設置状態では、同収納棚部３１の一部が窓部２１の上側略半分の領域と重なり合っている。この場合、中段の可動棚板３６ｂは、その下面が窓部２１の上端部と略同じ高さ位置となるように配置されており、下段の可動棚板３６ａは窓部２１の上下方向略中央の高さ位置に配置されている。

【００４７】

続いて、かかる収納棚３０（第１収納棚部３１）の設置状態において、窓ガラス２２を開放させる場合の作用について図６を用いて説明する。図６は、窓ガラス２２を開放させる場合の作用を説明するための説明図であり、（ａ）が窓ガラス２２を通常開放位置まで倒した状態を示し、（ｂ）がメンテナンス位置まで倒した状態を示す。

【００４８】

図６（ａ）に示すように、窓ガラス２２を通常開放位置まで傾倒させた場合には、窓ガラス２２の一部（回動先端側）が第１収納棚部３１の開口領域４０を通じて同収納棚部３１の内側に入り込み、上下に隣り合う２つの可動棚板３６ａ，３６ｂの間に配置される。この場合、窓ガラス２２が第１収納棚部３１に干渉するのを回避することができるため、窓ガラス２２を開いて通気を行うことが可能となる。

【００４９】

また、図６（ｂ）に示すように、窓ガラス２２をメンテナンス位置まで傾倒させた場合には、窓ガラス２２が下段の可動棚板３６ａと干渉する位置まで傾倒される。そのため、窓ガラス２２をメンテナンス位置まで傾倒させる際には、可動棚板３６ａを取り外した状態で傾倒させる。これにより、窓ガラス２２を大きく傾けた状態で窓ガラス２２の清掃等のメンテナンスを行うことができるため、メンテナンス性向上を図ることができる。

【００５０】

また、メンテナンス位置まで窓ガラス２２を傾けた状態で、窓部２１から網戸２３を取り外し、網戸２３のメンテナンスを行うこともできる。ここで、窓ガラス２２をメンテナンス位置まで傾倒させた状態では、窓ガラス２２の傾斜方向の延長線上に可動棚板３６ｂのみが設置されている。そこで、この可動棚板３６ｂを取り外せば、網戸２３を窓部２１から取り外した後、網戸２３を窓ガラス２２の窓面（屋外側の窓面）に沿ってスライドさせながら屋内側に移動させることができるため、網戸２３の取り外しを容易とすることできる。これにより、網戸２３のメンテナンスを好適に行うことが可能となる。

【００５１】

なお、窓ガラス２２のメンテナンスを行うに際して、下段の可動棚板３６ａの他に、中段の可動棚板３６ｂや、さらには上段の可動棚板３６ａを取り外してメンテナンスを行ってもよい。そうすれば、窓ガラス２２のメンテナンスをさらにし易くすることができる。

【００５２】

図３に戻って、同図に示されているその他の構成に関して説明すると、洗濯機１９は、洗面室１２の床面６５上に載置された排水パン６０の内側に設置されている。洗濯機１９から排水された水はこの排水パン６０に流れ、その後排水パン６０に接続された排水管（図示略）を通じて洗面室１２外部に排水される。外壁部１６の屋内面において洗濯機１９の上方位置には、洗濯機１９への給水を行うための給水栓６１が設けられている。給水栓６１には、給水配管６２が接続されており、その給水配管６２は外壁部１６を貫通して屋外側に延び、その後外壁部１６の屋外面に沿って下方に延びている。

【００５３】

外壁部１６の屋外面には、給水配管６２を覆うための配管カバー６３が設けられている。配管カバー６３は、上下方向に延びかつ外壁面側が開口された長尺箱状をなしており、例えば樹脂材料により形成されている。配管カバー６３は、その内部に給水配管６２を収容するようにして外壁部１６にビス等で取り付けられている。これにより、給水配管６２

を屋外側に配置する構成において建物１０の美観が損なわれるのを防止することができる。なお、給水配管６２は、配管カバー６３の底板部に形成された挿通孔部６３ａを通じてカバー外部に引き出されている。

【００５４】

上記のように、給水配管６２を外壁部１６の屋外面に沿って上下に延びるように配置したことで、給水配管６２を外壁部１６の屋内面に沿って上下に延びるように配置する場合と比べ、給水配管６２の外径寸法分、洗濯機１９を外壁部１６に近づけて設置することができる。これにより、窓ガラス２２に対して洗濯機１９が屋内側に張り出す張出量を小さくすることができるため、窓ガラス２２の開閉をし易くすることができる。

【００５５】

洗面室１２の床面６５を形成する床面材６６は、例えばパーティクルボードからなる。床面材６６は、基礎６７上に設置された床大梁６８上に床根太６９を介して下方から支持されている。なお、床大梁６８は、断面コ字状をなす溝形鋼よりなり、その溝開口を屋内側に向けた状態で配置されている。

【００５６】

以上、詳述した本実施形態の構成によれば、以下の優れた効果が得られる。

【００５７】

第１収納棚部３１の背面部４１において一部の領域にのみ背板３９を配設することにより同背面部４１に開口領域４０を形成し、窓ガラス２２を開放させた際にはその開口領域４０を通じて窓ガラス２２を第１収納棚部３１の内側に入り込ませるようにした。これにより、窓ガラス２２の屋内側に第１収納棚部３１が設置されていても、窓ガラス２２を開くことができ通気性を確保することができる。

【００５８】

また、窓ガラス２２を開いた際に窓ガラス２２が上下に隣り合う２つの棚板３６ａ，３６ｂの間に入り込むようにした。これにより、第１収納棚部３１が複数の棚板３５，３６を有する構成であっても窓ガラス２２を開くことができるため、実用上好ましい構成といえる。

【００５９】

また、それら上下に隣り合う２つの棚板３６ａ，３６ｂの双方を着脱可能な可動棚板３６ａ，３６ｂにより構成したため、窓ガラス２２の清掃等のメンテナンスを行う際にはそれら各可動棚板３６ａ，３６ｂを取り外した状態でメンテナンスを行うことができる。これにより、窓ガラス２２のメンテナンス性向上を図ることができる。特に、窓部２１の下方に洗濯機１９が設置されている場合には、洗濯機１９が邪魔となって窓ガラス２２のメンテナンスが困難となるおそれがあるため、その効果が大きいものとなる。

【００６０】

窓ガラス２２を、通常開放位置とそれよりも屋内側に傾倒されるメンテナンス位置とに傾倒可能とし、窓ガラス２２をメンテナンス位置まで傾倒させた際に窓ガラス２２と干渉する棚板３６ａを着脱可能の可動棚板３６ａとした。この場合、この可動棚板３６ａを取り外せば、窓ガラス２２をメンテナンス位置まで傾倒させることができるため、窓ガラス２２を大きく倒した状態でメンテナンスすることができる。これにより、メンテナンス性の向上を図ることができる。

【００６１】

本発明は上記実施形態に限らず、例えば次のように実施されてもよい。

【００６２】

（１）例えば、外壁部１６の一部であって窓部２１よりも下側の部分を段差部を介して当該窓部２１よりも屋外側に配置することで、洗面室１２を窓部２１よりも屋外側に拡張させる拡張スペースを形成し、その拡張スペースを利用して洗濯機１９を設置するようにしてもよい。その具体例を図７及び図８に基づいて説明する。なお、図７は外壁部１６周辺の構成を示す断面図であり、図８は図７のＢ－Ｂ線断面図である。

【００６３】

図７及び図８に示す建物８０では、外壁部１６として、窓部２１が形成された主外壁部１６ａと、窓部２１よりも下方において主外壁部１６ａよりも屋外側に設けられた副外壁部１６ｂとを備える。副外壁部１６ｂは、外壁部１６における幅方向の一部に形成されており、この副外壁部１６ｂが設けられることにより洗面室１２の一部が主外壁部１６ａよりも屋外側に拡張されている。以下、この拡張されたスペースを拡張スペース８５という。

【００６４】

拡張スペース８５を挟んで左右両側には一対の側面部８２が設けられている。これら各側面部８２はそれぞれ副外壁部１６ｂと主外壁部１６ａとに跨るように設けられている。拡張スペース８５の上方には、天面部８３が副外壁部１６ｂと主外壁部１６ａとに跨るようにして設けられている。この場合、拡張スペース８５は、副外壁部１６ｂ、各側面部８２及び天面部８３により囲まれて形成されている。ここで、各側面部８２及び天面部８３が段差部に相当する。

【００６５】

拡張スペース８５の床部は床支持部材９５を有して構成されている。床支持部材９５は、断面Ｌ字状をなす長尺材よりなり、床大梁６８のウェブの外側面に固定された支持板部９５ａと、支持板部９５ａの上端部から屋外側に向かって副外壁部１６ｂの下方に到るまで延びる支持板部９５ｂとを有する。支持板部９５ａの上面は床面材６６の上面と略面一とされており、支持板部９５ａの上面と床面材６６の上面とに跨るようにしてフローリング等の床仕上げ面材９６が敷設されている。

【００６６】

洗面室１２の床面（床仕上げ面材９６）上には、洗濯機１９が設置されている。洗濯機１９はその一部が拡張スペース８５に入り込んだ状態で設置されており、詳しくはその背面が副外壁部１６ｂの屋内面に近接する位置に設置されている。これにより、本例では、洗濯機１９において窓部２１に対し屋内側にはみ出すはみ出し量が、上記実施形態の場合と比べ、小さくなっている。そのため、窓ガラス２２の開け閉めに際して、洗濯機１９が邪魔となるのが抑制されており、その結果窓ガラス２２の開け閉めを容易に行うことが可能となっている。

【００６７】

図７に示すその他の構成として、副外壁部１６ｂの屋内面には給水栓６１が設けられており、この給水栓６１には給水配管９７が接続されている。給水配管９７は、上記実施形態の場合と異なり、副外壁部１６ｂの内部を下方に向かって延びている。また、洗濯機１９が設置されている排水パン６０には排水口６０ａが形成されており、その排水口６０ａには排水配管９８が接続されている。排水配管９８も給水配管９７と同様に下方に延びており、これら各配管９７，９８はそれぞれ床支持部材９５の支持板部９５ｂに形成された挿通孔部１０１を通じて下方に延びている。そして、これら各配管９７，９８はいずれも、床支持部材９５の下方において基礎６７の屋外側に配置されている。したがって、配管９７，９８のメンテナンスがし易くなっている。

【００６８】

また、床支持部材９５の支持板部９５ｂの下方には、給水配管９７と排水配管９８とを屋外から覆うようにして幕板９９が設けられている。幕板９９は、これら各配管９７，９８を囲むようにコ字状をなしており、その屋外面が副外壁部１６ｂの屋外面と略面一となるように配置されている。これにより、基礎６７の外側に配置される各配管９７，９８により建物の外観が損なわれるのを回避することができる。

【００６９】

ところで、副外壁部１６ｂを構築するにあたって、例えば図９に示すような壁フレーム９０を用いてもよい。すなわち、壁フレーム９０は複数のフレーム材が互いに連結されることにより構成されており、この壁フレーム９０に壁面材（図示略）を取り付けることで副外壁部１６ｂを形成する。具体的には、壁フレーム９０は、副外壁部１６ｂを構成するための副外壁フレーム部９０ａと、天面部８３を構成するための天面フレーム部９０ｂと

、主外壁部１６ａを構成するための主外壁フレーム部９０ｃとを有する。

【００７０】

副外壁フレーム部９０ａの下端部にはＬ字状の支持金具９２が取り付けられている。支持金具９２は、副外壁フレーム部９０ａの左右両端にそれぞれ設けられ、互いに直交する２つの板部９２ａ，９２ｂのうち一方の板部９２ａを下側に向けかつ他方の板部９２ｂを屋内側に向けて取り付けられている。主外壁フレーム部９０ｃには、複数のフレーム材により囲まれた矩形形状の開口領域１０５が形成されている。この開口領域１０５は窓部２１を形成するために用いられるものである。また、主外壁フレーム部９０ｃの上端部には、一対の吊り具９３が取り付けられている。

【００７１】

壁フレーム９０は、各吊り具９３がそれぞれ床大梁６８上方の天井大梁（図示略）に予め取り付けられたボルト（図示略）に吊り下げられ、かつ、各支持金具９２が床支持部材９５の支持板部９５ａ上に載置された状態で設置される。詳しくは、各支持金具９２は、その鉛直板部９２ａを支持板部９５ａの端部に当接させた状態で水平板部９２ｂが支持板部９５ａ上に載置されており、その載置された状態で水平板部９２ｂが支持板部９５ａに対しボルトにより固定されている。これにより、壁フレーム９０が建物１０側に固定されている。

【００７２】

かかる壁フレーム９０において副外壁フレーム部９０ａには図示しない壁面材が取り付けられることにより副外壁部１６ｂが形成され、天面フレーム部９０ｂには図示しない面材が取り付けられることで天面部８３が形成され、主外壁フレーム部９０ｃには図示しない外壁面材が取り付けられることで主外壁部１６ａの一部が形成される。また、主外壁フレーム部９０ｃの開口領域１０５を用いて窓部２１が形成され、同窓部２１には窓ガラス２２が配設される。また、副外壁フレーム部９０ａ及び天面フレーム部９０ｂを挟んだ左右両側にはそれぞれ側板１０３が設けられ、これらの側板１０３は各フレーム部９０ａ，９０ｂにおける左右両端のフレーム材に対しビス等で取り付けられる。この側板１０３により側面部８２が構成される。このように、副外壁部１６ｂを構築するにあたり壁フレーム９０（及び床支持部材９５）を用いれば、比較的簡単に窓下に拡張スペース８５を形成することができる。

【００７３】

（２）上記実施形態では、第１収納棚部３１に棚板３５，３６を上下４段設けたが、棚板３５，３６の段数は任意としてよい。例えば、棚板を最下段の棚板のみの１段とし、側板３３の高さ方向の中間位置には棚板を設けない構成としてもよい。また、上記実施形態では、可動棚板３６を上下３段配置したが、これら各可動棚板３６のうちいずれか又はすべてを固定棚板３５に代えてもよい。例えば、通常開放位置まで傾倒された窓ガラス２２を挟んで両側に配置される各可動棚板３６ｂ，３６ｃのうちいずれか一方を固定棚板３５に代えてもよい。

【００７４】

（３）窓ガラス２２との干渉を回避することができる範囲であれば、第１収納棚部３１における背面部４１の開口領域４０を上記実施形態のものより小さくしてもよい。例えば、背板３９を上記実施形態のものよりも下方に延ばして形成することで開口領域４０の開口高さ（上下高さ）を小さくすることが考えられる。具体的には、背板３９の高さ寸法を天板３８と可動棚板３６ｂとの離間距離と略同じとし、それら各板３８，３６ｂ間に上下に架け渡すようにして背板３９を配設する。この場合、背面部４１における上下方向の約半分に亘り背板３９が配設されるため、第１収納棚部３１の背面側の強度を高めることができる。また、背板３９と外壁部１６との当接面を広く確保することができるため、第１収納棚部３１を外壁部１６に安定した状態で設置することができる。

【００７５】

（４）上記実施形態では、収納棚３０において第１収納棚部３１に本発明を適用したが、これを変更して、扉付きの第２収納棚部３２に本発明を適用してもよい。すなわち、第

２収納棚部３２の背面部の一部にのみ背板５６を設けることで同収納棚部３２の背面部に開口領域を形成し、その開口領域により開放させた窓ガラス２２との干渉を回避するようにしてもよい。但し、第２収納棚部３２には前面に扉部５２が設けられているため、窓ガラス２２を開いても通気を十分に確保することができないおそれがある。この点を鑑みると、上記実施形態のように前面が開放された第１収納棚部３１に本発明を適用することが望ましいと思われる。

【００７６】

（５）上記実施形態では、窓ガラス２２が通常開放位置とメンテナンス位置との２位置に切替可能とされていたが、窓ガラス２２は通常開放位置のみに傾倒可能なものであってもよい。この場合、通常開放位置まで傾倒させた状態で窓ガラス２２のメンテナンスを行えばよい。また、上記実施形態では、窓部２１を開閉する窓戸として内倒し窓を用いたが、回転窓や、横開き式の内開き窓等その他の窓戸を用いてもよい。つまり、窓戸の開放時に少なくとも一部が窓部２１に対して屋内側に傾く窓戸であれば、本発明を適用可能である。

【００７７】

（６）上記実施形態では、収納棚３０が外壁部１６に固定されることで設置されていたが、収納棚３０は天井面に固定されることで吊り下げ設置されていてもよいし、設置台の上に載置されることにより設置されていてもよい。

【００７８】

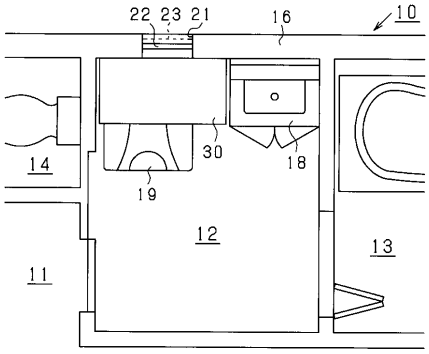
（７）上記実施形態では、洗面室１２に設置された収納棚３０に本発明を適用したが、トイレやキッチン等その他の部屋に設置される収納棚に適用してもよい。トイレやキッチンについても洗面室１２と同様手狭となることが多いため、収納棚が外壁部の壁際において一部窓部２１と重なるように設置される場合が考えられる。

【符号の説明】

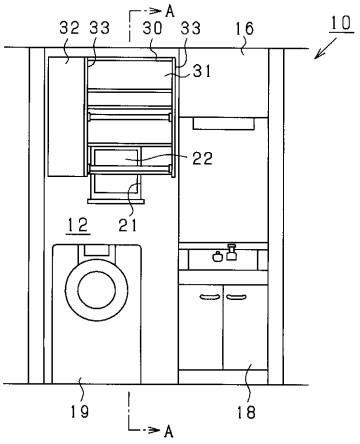
【００７９】

１０…建物、１２…ランドリー空間としての洗面室、１９…洗濯機、２１…窓部、２２…窓戸としての窓ガラス、２３…網戸、３０…収納棚、３１…第１収納棚部、３２…第２収納棚部、３３…側板、３５…固定棚板、３６…可動棚板、３９…背板、４０…開口部としての開口領域、４１…背面部。

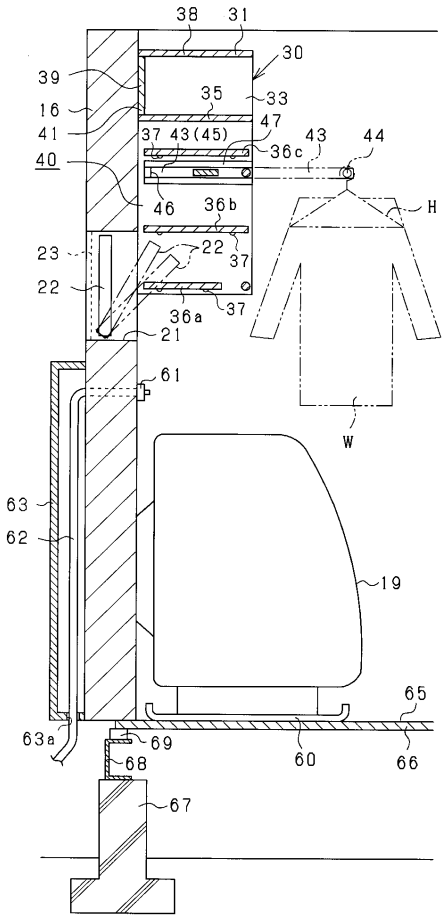
【図１】


22 23 21
16
10
14
30
18
19
12
13
11

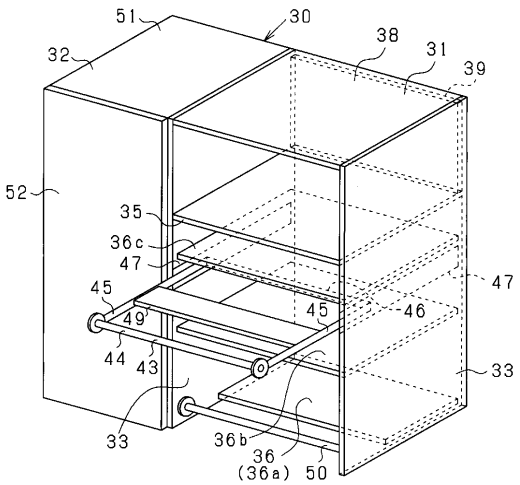
【図２】


A
32 33
30
33
16
10
31
22
12
21
19
18
A

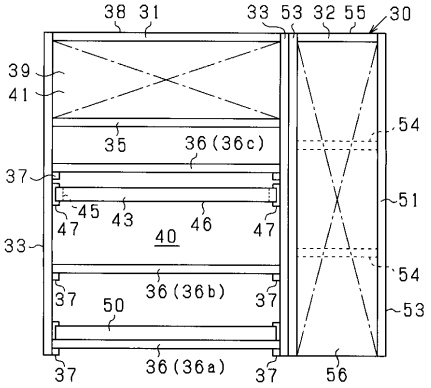
【図３】


38
31
30
39
35
33
16
47
41
37 43(45)
36c
43
44
40
46
36b
H
23
22
37
22
36a
37
21
61
W
63
62
19
65
63a
69
60
66
68
67

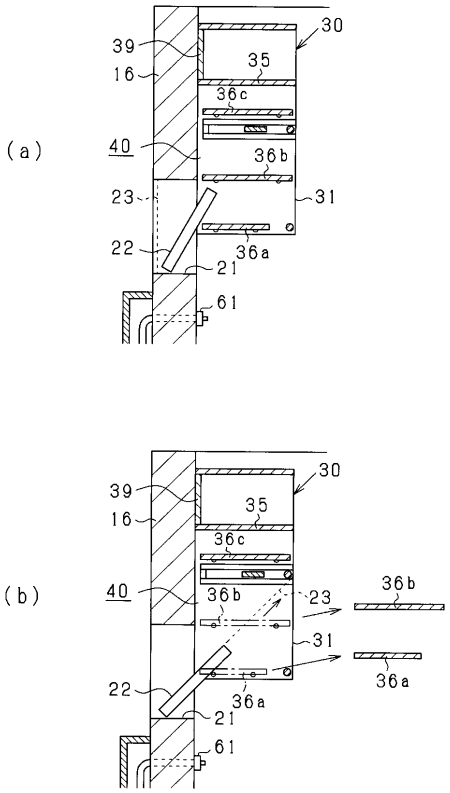
【図４】


51
30
32
38
31
39
52
35
36c
47
45
47
45
46
49
44
43
33
33
36b
36
(36a)
50

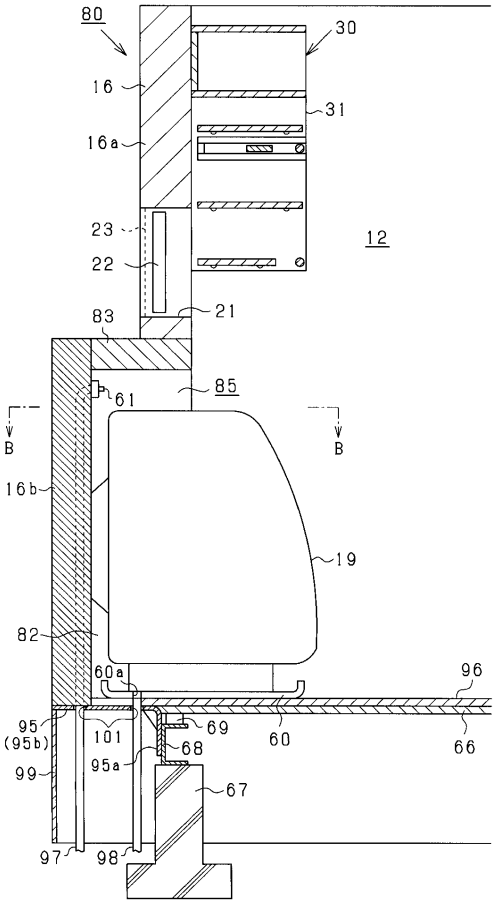
【図５】


38 31
33 53 32 55 30
39
41
54
35
36(36c)
37
51
45
47
43
46
47
40
33
54
37
36(36b)
37
50
53
37
36(36a)
37
56

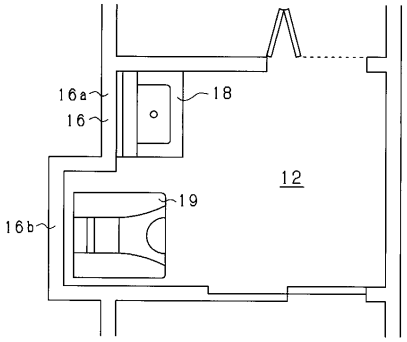
【図６】


(a)
30
39
35
16
36c
40
36b
23
31
22
36a
21
61
(b)
30
39
35
16
36c
40
36b
23
36b
31
36a
22
36a
21
61

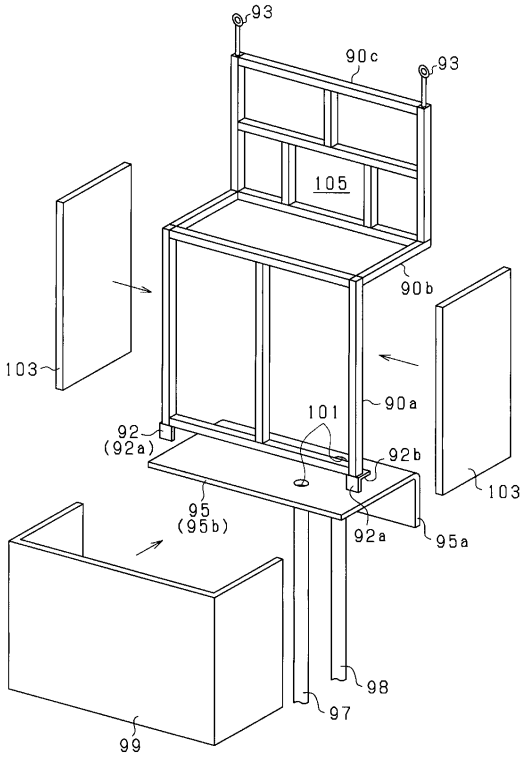
【図７】


80
30
16
31
16a
23
12
22
21
83
61
85
B
B
16b
19
82
60a
96
95
(95b)
101
69
60
66
68
99
95a
67
97
98

【図８】


16a
18
16
12
19
16b

【図９】


93
90c
93
105
90b
103
90a
101
92
(92a)
92b
103
95
(95b)
92a
95a
98
97
99